

して分かりやすいと思う。中国名は中国植物志では円錐山蚂蝗または総状花序山蚂蝗で、花序の形状に由来する。

Desmodium elegans DC. in Ann. Sci. Nat. 4: 100 (Jan. 1825); H. Ohashi in H. Hara, Fl. East Himal. 2: 278 (1971); Polunin et Stainton, Fl. Himalaya fig. 317 (1984); 中国植物志 41: 40 (1995).

D. tiliaefolium (D. Don) G. Don, Gen. Hist. 2: 297 (1832).

D. cinerascens Franch., Pl. Delavay. 174 (1890).

D. esquirolii H. Lévl., Fl. Kouy-Tchéou 232 (1914-15); 中国高等植物図鑑 2: 448 (1972).

証拠標本：愛媛県周桑郡丹原町明河余野，故三木正夫氏宅にて栽培。帰化原産地：西条市藤之石吉居，林道笹ヶ峰線，道路の法面。8 July 2001. 伊藤隆之 (TUS).

写真を提供して下さった武蔵高等学校・中学校校長福田泰二博士にお礼申し上げます。

引用文献

中国科学院植物研究所. 1972. 中国高等植物図鑑 2. 科学出版社，北京.

中国科学院中国植物志編集委員会. 1995. 中国植物志 41. 科学出版社，北京.

石井勇義 (編) 1953. 園芸大辞典 4. 誠文堂新光社，東京.

Kajita T. and Ohashi H. 1994. Chloroplast DNA variation in *Desmodium* subgenus *Podocarpium* (Leguminosae): Infrageneric phylogeny and infraspecific variations. J. Plant Res. 107: 349-354.

木下空太郎 1979. 百花譜. 上下. 岩波書店，東京.

松村任三 (編纂)，矢田部良吉 (関) 1884. 日本植物名彙. 丸善蔵版.

中田政司，関 太郎，伊藤隆之，小川 誠，根岸得之助，熊谷明彦，工藤 信 1995. 最近道路法面に発見されるキクタニギクとイワギクについて. 植物地理・分類 43: 124-126.

Ohashi H. 1971. A monograph of the subgenus *Dollinera* of the genus *Desmodium* (Leguminosae). In: Hara H. (ed.), Fl. East Himalaya 2: 259-320.

—— 1973. The Asiatic Species of *Desmodium* and Its Allied Genera (Leguminosae). 318 pp., 76 pls. Ginkgoana 1. Academia Scientific Book, Inc., Tokyo.

大橋広好 2002. 分類学私考. 分類 2: 65-73.

Polunin O. and Stainton A. 1984. Flowers of the Himalaya. Oxford University Press, Delhi.

帝国大学編纂 (松村任三) 1886. 帝国大学理科大学植物標品目録. 丸善商社，東京.

(^a東北大学大学院理学研究科
附属植物園津田記念館，
^b愛媛県立西条高校)

ハギ属の帰化植物 4 種 (大橋広好^a，根本智行^b，伊藤隆之^c)

Hiroyoshi OHASHI^a, Tomoyuki NEMOTO^b and Takayuki ITOH^c: Four Naturalized Species of *Lespedeza* (Leguminosae) in Japan

最近著者の一人伊藤によって愛媛県・香川県内の道路法面で多くのハギ属植物が採集された。標本を調べた結果，中国原産であろうと思われる 3 種の新帰化品と最近帰化と記録された 1 種とが含まれていた。新帰化品の種名は大橋 (2002) が既に紹介したが，ここで詳しく記録しておきたい。また，1999年に山口県から真崎 (1999) によって帰化が記録されたオクシモハギについても併せて記録しておきたい。ここに報告する 4 種のハギは中国に共通して野生するものであることから，多分中国の原産であろう。キク科植物の場合

(中田他 1995) と多分同じように，種子で輸入され，おそらく道路工事に際して建設業者により新道の法面に吹き付けられ，それから生育したものと思われる。

1. *Lespedeza davurica* (Laxm.) Schindl. オオバメドハギ

オオバメドハギの自生地は朝鮮，台湾，中国，モンゴル，キルギスタン，およびロシアのシベリア，アムールから沿海州である。本種の図は中井猛之進 萩類の研究 88-89ページ (1927)，中国高等植物図鑑 2: 2651 図 (1972)，中国植物志 41: 39 図版 (1995) など

にある。これまで日本でオオバメドハギと呼ばれていた神奈川県平塚市の植物は *Lespedeza davurica* (Laxm.) Schindl. と異なる種であり、サガミメドハギ *L. hisauchii* T. Nemoto & H. Ohashi と命名された (Nemoto and Ohashi 1999)。さらに、サガミメドハギは平塚市の他にも神奈川県葉山町と東京都蒲田でも採集されていたことも明らかにされた。また、群馬県前橋市から記録されたオオバメドハギはシベリアメドハギ *L. juncea* (L.f.) Pers. (和名については後述) の誤同定であったことも確認された。したがって真のオオバメドハギは日本にはないことが明らかにされたばかりであったが、このたび愛媛県内に新しく帰化していることが確認された。

本種はハギ亜属の種で、在来種ではメドハギ、シベリアメドハギおよびサガミメドハギによく似ているが、次の点で区別できる。オオバメドハギでは萼裂片の先は鋭尖形またはやや尾状に伸びており、向軸側の2裂片は中央より基部側で合着し、最下の裂片は側裂片よりも長い。また、小苞片は萼筒よりも長い。メドハギ、シベリアメドハギは頂小葉は狭倒卵形から線形で、基部は切形から鈍形となるが、オオバメドハギでは頂小葉は狭楕円形で両端は鈍形である。サガミメドハギは小葉上面に細かい軟毛があり、小花柄に腺毛があるが、オオバメドハギでは小葉上面は無毛、小花柄に腺毛を欠く。

Lespedeza davurica (Laxm.) Schindl. in Repert. Spec. Nov. Regni Veg. **22**: 274 (1926); Icon. Cormophyt. Sin. **2**: 461, fig. 2651 (1972); Li & Chen in Fl. Reipubl. Popul. Sin. **41**: 151, pl. 39 (1995).

オオバメドハギ

証拠標本：愛媛県今治市砂場町、西瀬戸自動車道（シマナミ海道）の側道法面に帰化，2 Sept. 2001, 伊藤隆之 (TUS); 愛媛県伊予郡中山町栗田仁川登，県道223号中山砥部線の道路法面，13 Aug. 2002, 伊藤隆之 (TUS)。

2. *Lespedeza floribunda* Bunge トウクサハギ

本種は中国に広く分布する固有種で、中国高等植物図鑑 **2**: 2653 図 (1972)、中国植物志 **41**: 38 図版 (1995) に図がある。頂小葉

が倒卵形または楕円形で先端がやや凹むことが多く、ときには鋭形となり、中肋の先が突出する。下面には白い絹毛があり、側脈は約12対あってほぼ並行し、花は紅紫色で翼弁が龍骨弁よりも明らかに短い。これらの特徴によって他のハギ亜属の種から容易に区別することができる。中国植物志では花序の柄が細く長いことでマキエハギ *Lespedeza virgata* (Thunb.) DC. に似ているとしているが、枝は直立して、花序は基部の葉よりも伸長し、紅紫色の花をつける姿はむしろヤマハギ的で、おしぼ標本ではヤマハギの貧弱な個体に似ているものもある。Nakai (1932) は本種を熊本県から報告したが、これはヤマハギの誤同定に基づくものであった (Ohashi and Nemoto 2003)。これまで真の *Lespedeza floribunda* Bunge は日本から野生も帰化も知られていなかった。

Lespedeza floribunda Bunge, Pl. Mongol.-Chin. Decas Prima: 13 (1835); Schindl. in Bot. Jahrb. **49**: 597 (1913); Icon. Cormophyt. Sin. **2**: 462, fig. 2653 (1972); Li & Chen in Fl. Reipubl. Popul. Sin. **41**: 148, pl. 38 (1995).

トウクサハギ

証拠標本：愛媛県今治市砂場町西瀬戸自動車道（シマナミ海道）の側道法面に帰化，2 Sept. 2001, 伊藤隆之 (TUS); 同，10 Nov. 2001, 伊藤隆之 (TUS)。香川県観音寺市栗井町栗井ダム道路法面に帰化，23 Sept. 1999, 伊藤隆之 (TUS); 同，14 Aug. 2001, 伊藤隆之 (TUS); 同，23 Nov. 2001, 伊藤隆之 (TUS); 愛媛県伊予郡中山町栗田仁川登，県道223号中山砥部線の道路法面，13 Aug. 2002, 伊藤隆之 (TUS)。

3. *Lespedeza inschanica* (Maxim.) Schindl. カラメドハギ

本種は中国と朝鮮に分布する。本種の図は中井，萩類の研究 91ページ (1927)、中国高等植物図鑑 **2**: 2658 図 (1972)、中国植物志 **41**: 41 図版 (1995) にある。*Lespedeza inschanica* (Maxim.) Schindl. という学名はこれまで日本から3回記録されたことがあるが、いずれも誤同定に基づくものであったと思われるので、今回が初めての記録となる。最初の記録は Schindler (1913) による帰化の報告である。しかし、これはメドハギとハイメドハギの誤同定と思われる (Ohashi and Nemoto 2003)。次いで本種が日本に自生するとした

二つの報告例（中井 1927, 奥山 1938）は *L. juncea* (L. f.) Pers. (大井 1953) の誤同定に基づくものであった (Ohashi and Nemoto 2003). なお, 中国植物志 41 (1995) では本種が日本に自然分布するとしているが, 間違いである.

はじめに *Lespedeza inschanica* の和名について検討しなければならない. カラメドハギという和名は中井 (1927) によって初めて発表されたが, この和名と学名の対応は曖昧であり, カラメドハギを *L. cystoides* Nakai と *L. cystoides* var. *inschanica* (Maxim.) Nakai の 2 つの学名に対して用いたようにみえる. カラメドハギに *Lespedeza cystoides* Nakai を対応させ, もう一方で, *L. cystoides* をシベリアメドハギ, *L. cystoides* var. *inschanica* をカラメドハギと呼んだ. 次いで, 奥山 (1938) が *L. inschanica* (Maxim.) Schindl. をカラメドハギと呼んだ. また, Kitagawa (1939, 1979) は中井 (1927) の誤りを正し, *L. cystoides* の綴りは *L. cytisoides* が正しく, その正名を *L. hedysaroides* (Pall.) Kitag. に改めた. さらに同種の種内分類群を含む学名と和名との対応を明らかにした. すなわち, *L. hedysaroides* はシベリアメドハギ, var. *inschanica* はカラメドハギとした.

ところが大井 (1953) はその異名として *L. cytisoides* var. *inschanica* (Maxim.) Nakai や *L. inschanica* を含まない *L. juncea* (L.f.) Pers. をカラメドハギと呼んだ. さらに大井 (1953) は *L. juncea* の異名として *L. cytisoides* Nakai を引用した. 大井 (1953) は *L. juncea* には中井や奥山のカラメドハギが含まれていないこと, すなわち, *L. inschanica* と *L. juncea* とは別種であることを明らかにしたのである. したがって, 大井 (1953) は *L. juncea* の和名として *L. cytisoides* の和名シベリアメドハギを用いるべきであった. このため, *L. cytisoides* var. *inschanica* (Maxim.) Nakai と *Lespedeza inschanica* という学名は日本のフロラから消え, カラメドハギという和名が違う種に残ってしまった. 以後カラメドハギという和名は *L. juncea* に対して用いられてきた (北村, 村田 1961, 大井 1965, 長田 1972, 大橋 1982, Ohashi 2001).

今回 *Lespedeza inschanica* が日本に帰化し

ていることが明らかになった. この学名に対応する和名は中井 (1927) と奥山 (1938) に従ってカラメドハギとすべきであると考え. また, *L. juncea* にはシベリアメドハギの名を当てるべきである. 北川 (大井, 北川 1992) が日本から記録したイヌメドハギ *L. hedysaroides* (Pall.) Kitag. var. *subsericea* (Kom.) Kitag. はシベリアメドハギ *L. juncea* と同じものであり, 和名学名ともシベリアメドハギの異名となる (Ohashi and Nemoto 2003).

カラメドハギ *L. inschanica* はシベリアメドハギ *L. juncea* とメドハギ *L. cuneata* によく似ており, 外観上の区別が難しいが, いくつかの形質を組み合わせると明らかに区別できる. カラメドハギは小葉が楕円形から倒卵形で鈍頭から円頭またはやや凹頭, シベリアメドハギでは小葉は狭倒卵形から狭楕円形で鋭頭から鈍頭, メドハギでは狭倒卵形から線形で先端は切形であることが多い. カラメドハギとメドハギはシベリアメドハギよりも小花柄が短く, 長さ 1 mm 前後で, 花序軸は伸長しない. また, カラメドハギとシベリアメドハギは萼裂片が狭卵形で裂片の基部が重なるが, メドハギは線状三角形で幅が狭く, 裂片の基部は重ならない.

Lespedeza inschanica (Maxim.) Schindl. in Bot. Jahrb. 49: 603 (1913), Pl. Wilson. 2: 108 (1914); Icon. Cormophyt. Sin. 2: 464, fig. 2658 (1972); Li & Chen in Fl. Reipubl. Popul. Sin. 41: 158, pl. 41 (1995), exclude Japan from the natural distribution areas.

L. juncea (L.f.) Pers. var. *inschanica* Maxim. in Acta Hort. Petrop. 2: 371 (1873).

L. cystoides (Pallas) Nakai var. *inschanica* (Maxim.) Nakai, Lesp. Jap. Kor.: 95 (1927), p. p., excl. specim. Jap.

L. hedysaroides (Pallas) Kitag. var. *inschanica* (Maxim.) Kitag., Lineamenta Fl. Mansh. 288 (1939); Kitag., Neo-Lineamenta Fl. Mansh. 406 (1979).

カラメドハギ

証拠標本: 愛媛県今治市砂場町西瀬戸自動車道 (シマナミ海道) の側道法面に帰化. 2 Sept. 2001. 伊藤隆之 (TUS).

4. *Lespedeza davidii* Franch. オクシモハギ

本種の日本への帰化は真崎 (1999) によって初めて記録された。山口県玖珂郡美和町で、魚切林道の新設法面にビッチュウヤマハギに混ざって帰化していたそうである。愛媛県と香川県でも新設道路の法面で採集された。本種は中国に固有であり、華中・華南に広く分布する。本種の図は中国高等植物図鑑 2: 2650 図 (1972), Akiyama, Revision *Lespedeza* sect. *Macrolespedeza* 20 図版 (1988), 中国植物志 41: 35 図版 (1995) にある。また、国立科学博物館の自然科学と博物館 35 (9-10): 表紙写真 (奥山 1968) ともなった。直立あるいは斜上する多年草または半低木で高さ 100~200 cm。枝に陵があり、枝や葉柄に開出毛が密生する。葉は 3 小葉、小葉は楕円形から広楕円形、鋭頭から円頭、厚質、両面に伏した密毛があり、頂小葉は長さ 3~13 cm、幅 2~10 cm。花序は短く、基部の葉よりやや長い。花は紅紫色、萼歯は狭三角形で先は長く尖り、萼筒の 3 倍長。果実は楕円形で、長さ約 1 cm、伏した毛を密布する。オクシモハギ (置霜萩) は前川文夫先生の命名。本種の日本への初めての導入は支那事変に召集された前川先生が 1939 年に江西省で採集した種子を東京に送り、それから東京で育成されたものであるという (前川 1966, 奥山 1968)。東京では稀に栽培されていた。1990 年代には仙台市でも園芸店で苗が販売されていたが、その起源は不明である。仙台市内の大橋宅でもよく開花し、結実した。

Lespedeza davidii Franch., Pl. David. 1: 94, t. 13 (1884); Icon. Cormophyt. Sin. 2: 460, fig. 2650 (1972); Akiyama in Univ. Mus. Univ. Tokyo no. 33: 1140 (1988); Li & Chen in Fl. Reipubl. Popul. Sin. 41: 140 (1995).

オクシモハギ

証拠標本：愛媛県西条市東之川林道東之川線入口の道路法面、帰化、3 June 2001, 伊藤隆之 (TUS); 愛媛県新居浜市大永山、小味地林道小味地線の道路法面、帰化、14 Aug. 2001, 伊藤隆之 (TUS)。香川県観音寺市粟井町粟井ダム入口の道路法面、帰化、8 Sept. 2001, 伊藤隆之 (TUS)。

山口県真崎博氏にオクシモハギの資料を送っていただいた。お礼を申し上げます。

Recently several naturalized species of *Lespedeza* have been found in Shikoku, Japan. They are believed to have been imported from China in seed-mix which was sowed as roadside cover more than 10 years ago. Among them, *Lespedeza davurica* (Laxm.) Schindl., *L. floribunda* Bunge and *L. inschanica* (Maxim.) Schindl. were found for the first time in Japan, and *L. davidii* for the second time after its first record in Japan in 1999. Distinctions from similar species native to Japan are provided, and references and voucher specimens for these species are cited. The Japanese names are given for these introduced *Lespedezas*.

引用文献

- Akiyama S. 1988. A revision of the genus *Lespedeza* section *Macrolespedeza* (Leguminosae). The University Museum, The University of Tokyo Bulletin No. 33. 170 pp.
- 中国科学院植物研究所. 1972. 中国高等植物図鑑 2. 科学出版社, 北京.
- 中国科学院中国植物志編纂委員会. 1995. 中国植物志 41. 科学出版社, 北京.
- Kitagawa M. 1939. Lineamenta Florae Manchuricae. Rep. Inst. Sci. Res. Manchoukuo 3. Append. 1.
- 1979. Neo-Lineamenta Florae Manchuricae. J. Cramer, Vaduz.
- 北村四郎, 村田 源 1961. 原色日本植物図鑑 草本編 II, 離弁花類. 保育社, 大阪.
- 前川文夫 1966. オクシモハギの由来. 植物採集ニュース No. 23.
- 真崎 博 1999. 山口県産高等植物についての新知見. 山口県植物研究会会報 2: 4-7.
- 中井猛之進 1927. 萩類の研究 (林業試験場報告第 6 号). 朝鮮総督府林業試験場, 京城.
- Nakai T. 1932. Notulae ad Plantas Japoniae & Koreae XLI. Bot. Mag. Tokyo 46: 37-67 [pp. 56-57, No. 1104, *Lespedeza floribunda* Bunge].
- 中田政司, 関 太郎, 伊藤隆之, 小川 誠, 根岸得之助, 熊谷明彦, 工藤 信 1995. 最近道路法面に発見されるキクタニギクとイワギクについて. 植物地理・分類 43: 124-126.
- Nemoto T. and Ohashi H. 1999. A new species of *Lespedeza* (Leguminosae) from Japan. J. Jpn. Bot. 74: 268-281.
- 大橋広好 1982. マメ科. 佐竹義輔他 (編), 日本の野生植物草本 II. 平凡社, 東京.
- 2002. 分類学私考. 分類 2: 65-73.
- Ohashi H. 2001. Leguminosae. In: Iwatsuki, K., Ohba, H. and Boufford, D.E. (eds.): Flora of Japan IIb:

- 213–279. Kodansha Ltd., Tokyo.
- and Nemoto T. 2003. Erroneous records of *Lespedeza* (Leguminosae: Papilionoideae) from Japan. *J. Jpn. Bot.* **78**: 42–47.
- 大井次三郎 1953. 日本植物誌. 至文堂, 東京.
- 1965. 改訂新版日本植物誌 顕花篇. 至文堂, 東京.
- (著)・北川政夫 (改訂) 1992. 新日本植物誌 顕花篇. 改訂版. 至文堂, 東京.
- 奥山春季 1938. 日本産植物雑記 (其四). 植物研究雑誌 **14**: 340–344.
- 1968. オクシモハギ. 自然科学と博物館 **35** (9–10): 表紙写真の解説.
- 長田武正 1972. 日本帰化植物図鑑. 北隆館, 東京.
- Schindler A. K. 1913. Einige bemerkungen über *Lespedeza* Michx. und ihre nächsten Verwandten. *Bot. Jahrb.* **49**: 570–658.
- (*東北大学大学院理学研究科
附属植物園津田記念館,
^b石巻専修大学理工学部基礎理学科,
^c愛媛県立西条高校)

マメ科の新帰化植物ハナハギ (大橋広好^a, 米倉浩司^b, 小川 誠^c)
Hiroyoshi OHASHI^a, Koji YONEKURA^b and Makoto OGAWA: A New Naturalized Legume,
Campylotropis macrocarpa, in Japan

著者らの一人小川は2000年10月10日に高知県土佐清水市大岐下益野林道でヤマハギに似た1種を採集した。これはハナハギ *Campylotropis macrocarpa* (Bunge) Rehder であった。採集地は1993から1997年の間に工事が行われたという林道の法面である。この林道では法面にイタチハギが吹き付けられており、採集地の周辺にはブタクサ、オオキンケイギク、マツバウンランなどの帰化植物がみられた。採集地の環境状態から見て、今回発見されたものは帰化品であると考えられる。愛媛・香川県における中国産ハギ類の帰化例 (大橋2002, 大橋他 2003) から見ると、四国では近年の林道工事に際して新道路法面に中国原産のマメ科種子を散布しているようである。高知県フロラ (山中 1978) にハナハギは記録されておらず、本種は1970年代末以降、多分1993年以後に中国から持ち込まれたものと思われる。ハナハギは属としても種としても日本から初めての記録である。

ハナハギ属はハギ属に近縁で、特に閉鎖花をもたない点でヤマハギ亜属の種と非常によく似ている。しかし、花序の1節には1花だけをつけ、龍骨弁の舷部は中央で著しく内曲し、舷部の先が尖ることでハギ属から区別できる。その他にも花内蜜腺を欠くことやポンプ型の送粉機構をもつこともハギ属とは異なっている (Iokawa and Ohashi 2002)。ハナハギはこの属の中で最も広い分布域をもち、モン

ゴル南部、中国の中部以北および朝鮮半島に分布し、属の分布東限をなしている (Iokawa and Ohashi 2002)。

属としての特徴以外にも本種の花序軸や小花柄には蜜腺があるが、ふつうハギ属では蜜腺はない。また、本種は花序の苞葉が早落性である。今回の帰化品を見ると小葉は橢円形から広橢円形で円頭から凹頭、やや厚質で表面が無毛であることにより、花や果実がない状態ではツクシハギ *Lespedeza homoloba* Nakai と見誤るかもしれない。一般にはツクシハギに比べるとハナハギの頂小葉は鋭頭であることが多い。本種は変異に富み多型であるため、多くの近縁種や種内分類群が記載されていたが、Iokawa and Ohashi (2002) は1変種1品種に整理した。今回の帰化品は果実の側面が無毛であるため var. *macrocarpa* f. *macrocarpa* に当たる。

ハナハギの図は中国高等植物図鑑 **2**: 2663 図 (1972), 中国植物志 **41**: 26 図版 (1995) および Iokawa and Ohashi (2002) の Figs. 1, 34b, 35B にある。

Campylotropis macrocarpa (Bunge) Rehder in Sargent, Pl. Wils. **2**: 113 (1914), in nota; Icon. Cormophyt. Sin. **2**: 467, fig. 2663 (1972); Li & Chen in Fl. Reipubl. Popul. Sin. **41**: 115, pl. 26 (1995); Iokawa & H. Ohashi in J. Jpn. Bot. **77**: 267 (2002).

証拠標本：高知県土佐清水市下益野～横道、